

## 基本目標Ⅲ だれもが安心して働き暮らせるまちづくり

### 目標の趣旨

- 我が国は人口減少時代を迎えており、この低下を放置すれば社会経済全体に与える影響は計り知れないものがあります。また、家族のあり方は多種多様化し、ライフスタイルの変化などにより、かつて大家族で支えられてきた家庭内の家事・育児・介護などの機能が変化してきています。そのような中、性別役割分担意識は徐々に変化が見られ、改善されつつありますが、子育てなどの家庭責任が一方の性に偏らず、子育てなどを共通の課題として男女がともに担い、パートナーである男性が子育てなどに参画できる環境を整備する必要があります。
- 就業形態の変化により、パート・アルバイトなどの非正規社員が増え、子どもを持つ余裕の無い若年世代が増えています。正社員同士の夫婦でも、長時間労働で、仕事と子育ての両立が難しい状況です。子育て世代を社会全体で支える「子育ての社会化」が必要です。
- 出産で退職した女性の再就職が有利な条件で行えたり、仕事と育児の両立に理解を持つなど、企業側の努力も必要です。市としても子育て支援の充実を図り、仕事と家庭、社会生活が円滑に行えるよう施策をさらに進めます。
- 地域でも、子育てや介護を互いに支え合っていくため、相互扶助意識の高揚や子育てや介護を地域内で助け合う体制づくりに取り組んでいくことが必要です。
- 女性は妊娠・出産など、男性と異なる女性特有の健康上の問題が生じることから、さまざまな場面において周囲からの配慮が必要であり、男女が互いの身体的性差を十分に理解し合い、人権を尊重しつつ、相手に対する思いやりをもって生きていくことは大変重要です。そこで、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ<sup>※10</sup>（性と生殖に関する健康と権利）が正しく理解され、自らの健康、相手の健康を考え、男女が互いに理解し合い、性に関するいろいろなことについて、責任を持って決定していける人権が尊重される社会環境づくりが必要です。

※10 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）：1994年にカイロで開催された国際人口/開発会議において提唱された概念で、今日では、女性の人権の重要な一つとして認識されている。リプロダクティブ・ヘルス／ライツは、個人の自己決定権を保障する考え方で、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかを選ぶ自由、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており、また、思春期や更年期における健康上の問題など生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されている。

## ◆重点課題1 一人ひとりの自立のためのまちづくり

### ➤ 現況と課題

- “男性は家計の担い手、女性の就労はその補助”という役割関係は、ひとり親家庭における経済的な生活不安を増大させています。特に、母子家庭は、就労形態が不安定であることも多く、経済的に自立するためには、安定した雇用確保とともに家事・育児などの負担軽減のためのさまざまな支援も求められています。さらに、福祉関連施設の充実が一番の基本ですが、人材確保とボランティア制度の確立が、今後さらに必要となります。また、社会経済情勢の悪化により、貧困など生活上困難な状況に置かれた家庭などへの支援体制も重要となってきます。
- 生涯を通じて、ゆとりある充実した人生を送るためには、生活・経済面の安定、健康の維持、地域社会活動など、安心して暮らせるための対策が必要です。
- ひとり親家庭や、高齢者、子ども、LGBTなど性的少数者、障がいがあること、外国人やルーツが外国であること、同和問題の当事者であることなどに加え、女性であることで更に複合的に困難な状況に置かれている場合があることに留意し、このような人々についての正しい理解を深め、社会全体が多様性を尊重し、ともに社会を支える一員として地域で自立した生活ができるよう、人権教育・啓発を進める必要があります。さまざまな状況に応じた支援については、市の計画などの中で推進していきます。

### ➤ 施策の内容

- (1) 子育て支援の充実
  - ① ひとり親家庭の自立と生活の安定のための事業の拡大
- (2) 生活困難を抱える家庭への支援
  - ① 自立生活に向けての支援



## ◆重点課題2 心とからだの健康の保持増進

### ➤ 現況と課題

- 人生100年時代の長い人生をいきいきと過ごしていくためには、寝たきりや、認知症の予防を含めた健康の保持が不可欠の条件です。また、現代の社会は、ストレスなどにより心の病気が増え、男女ともに厳しい環境におかれています。そのため、日ごろの生活を支える心身の健康の維持が特に重要です。
- 男女の健康を守るためにも、エイズや性感染症に関する健康問題に取り組み、女性が自尊心をもって自分の意志で身体をコントロールできるような教育が必要です。そして、男女が互いの身体的性差を十分に理解し合い、互いの人権を尊重しつつ、相手に対する思いやりを持って生きていくことは、男女共同参画社会の形成に当たって重要なことです。
- 「生涯を通じた女性の健康支援」について、子どもを産む・産まないにかかわらず、年齢にかかわらず、あらゆる年代の女性についての健康の保持・増進を図ります。さらに、男女の性差に応じた健康を支援するための総合的な取組を維持することが必要です。
- 生涯を通じた男女の健康の保持増進が不可欠ですが、特に女性の心身の状態は、思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期といった、ライフステージごとに大きく変化するという特性があり、人生の各段階に応じた適切な健康保持増進ができるよう、総合的な対策を推進します。近年、特に予防医学に対する認識と生活習慣病への理解は進んでいますが、食害、公害、ストレスなどによる健康への被害が発生しています。生活を見直し、ゆとりのある暮らしを考えていく必要があります。

### ➤ 施策の内容

- (1) 生涯を通じた健康支援の充実
  - ① 健診機会・健康教育・相談の拡充
  - ② 母性保護の啓発促進
  - ③ リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する知識の普及・啓発